



Crossculture
Publishing
Company Ltd.

新刊案内



Crossculture
Publishing
Company Ltd.

2020年2月22日刊行予定

【アカデミック エッセイ】

学問の窓は歴史家によって開かれた!!

アーカイブズと私 —大阪大学での経験—

■著者: 阿部武司 (大阪大学名誉教授・国士舘大学教授) ■体裁: A5判・並製 190頁

■定価: 本体2000円+税

ISBN978-4-908823-67-1 C1000

経済史・経営史を専門とする著者は、大阪大学の改革の中で図書館と博物館の運営に携わり、また大学アーカイブズを設立し、学外でも企業アーカイブズに関わってきた。それらの経験を振り返り、近年の大学改革の一面を明らかにし、アーカイブズの重要性を訴え、さらに文系学問における国際化の意味や読書の重要性を論じた〈アカデミック エッセイ〉。写真・関連年表入り。

【目次】

はじめに

第1章 図書館・博物館・文書館

第2章 企業アーカイブズと大学

第3章 大学アーカイブズと企業アーカイブズ—現状と課題—

第4章 アーカイブズ創設とアーキビスト

第5章 大阪大学アーカイブズの構築

(1) 大阪大学文書館設置準備室だより発刊に寄せて (2) 大阪大学の歴史から学ぶもの

(3) 大学史の編さんと文書館 (4) 『大阪大学アーカイブズニュースレター』の発刊に寄せて

(5) 大阪大学アーカイブズの創設と国立大学文書館 (6) 退任のご挨拶

(補論) 大阪大学名誉教授の談話記録に関する経済学部同窓会会員宛のお知らせ

第6章 日本の官公庁における文書保存

第7章 外国のアーカイブズ

第8章 大阪大学経済史・経営史資料室

(1) 大学改革における「不易」 (2) 大阪大学経済史・経営史資料室

(3) 日本紡績協会資料について (4) 旧三和銀行所蔵史料について

第9章 社会科学の国際化

(1) 20世紀における英国北西部と関西ビジネスの変遷

(2) 人文・社会科学の国際化をめぐる(一)—綿業史研究の現状と問題点—

(3) 人文・社会科学の国際化をめぐる(二)—ジャネット・ハンター教授の新著に関連して—

第10章 読書の効用 (1) 大学生と読書 (2) 情報化時代と読書

参考文献 関連年表



経済史経営史資料室に保管された鴻池文書

クロスカルチャー出版 〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6 電話: 03-5577-6707 ファクス: 03-5577-6708

| | | |
|-----------|--|----|
| 【注文短冊】書店印 | 発行: クロスカルチャー出版 TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708 | |
| | アーカイブズと私—大阪大学での経験— ■定価: 本体2000円+税 ISBN978-4-908823-67-1 C1000 【お客様の名前】 | |
| ご担当者様() | 冊 | 住所 |

阿部武司『アーカイブズと私—大阪大学での経験—』を推薦します

九州大学 記録資料館教授 三輪宗弘

深い蘊蓄、鋭い読み、幅広い視野から繰り出される英知を、本物を探し求めている読者諸賢に一読いただきたい。

阿部武司先生との初めての出会いは、東大の中村隆英先生のゼミであった。中村先生の質問に「次から次へとの確かつ具体的に答える」若き阿部助教授（筑波大学）に、ここまで資料を読み込んでいる博覧強記な研究者がいるのだと正直に思った。「隆英先生」の「嬉しそうな、満足したぞ」という顔を今も鮮明に思い出す。35年ほど前になる。

阿部先生の研究スタイルは、先行研究の網羅的な読み方、資料の徹底的な読み込みである。学術書の註にあげられた文献はすべてチェックするだけで満足せず、すべて読まないとなまらないのである。一点一点眼光鋭く批判の目を向けながら読み進めていく。理論を振り回す研究者には批判的で、一刀両断で切られていく。外国の研究者の物真似や流行する学説に飛び乗った迎合者にも情け容赦ない評価が下る。

一齣をご披露しよう。産業集積に関する研究では、自分で積み上げた研究を土台にして、思索に基づく、膨大な文献と資料の読み込みに裏打ちされた、日英の産業集積の比較が行われる（本書では直接触れられていないが、読者は阿部先生の綿業の研究を手にとられた）。小生の父親は、伊藤忠と丸紅という商社の庇護のもと、毛織物業でそれなりに成功したが、小生は父の家業を継がなかった。繊維産業だけは研究するのだけは「やめよう」と誓ったのだが、小学校2年生から重たいものを持ち運びしたので、体に染みついたものがあるのだろう。阿部先生の商社の役割に関する指摘は、父をみているだけにその通りだと思った。

阿部武司先生は研究だけでなく、一つの考えに囚われることなく、様々な見方や意見を汲み上げ咀嚼するというスタイルで、大学行政にも邁進した。常にプラス思考である。阪大の近代経済学の大家とは異なるスタンスで、広く意見を聞き、思慮し、進むべき方向を模索していく。一旦決めたら粘り強く説得する。「大阪大学アーカイブズの創立」に関する記述を読みたい。

アーカイブズや記録管理の学問分野の中で、阿部武司先生の本書の果たす役割は大きなものがあるだろう。若手研究者の必読の文献である。